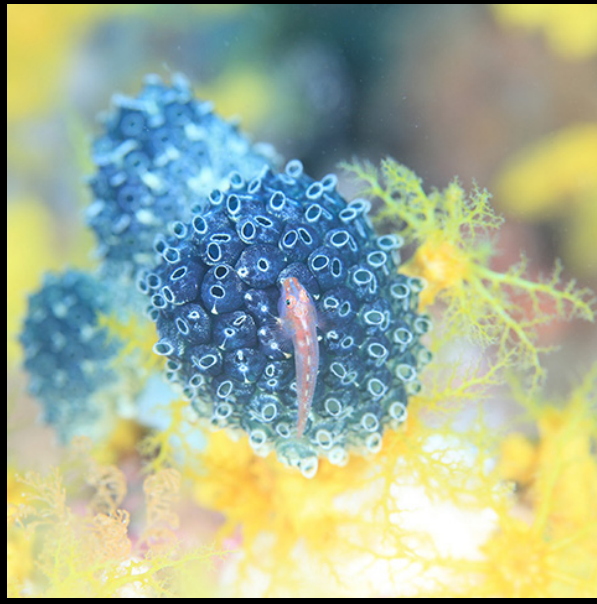
SORA web magazine 2017.dec. vol.92

Philippines Travel

Anilao



口コミで、安定した人気を誇るアニラオの魅力

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP CLICK!

フィリピンでのダイビングと言えば、セブをまず思い出す。しかし、セブよりも歴史が古い人気のダイビングエリアがある。それが今回取材したアニラオ。マニラ経由ということで、大丈夫かな?と懸念される方もいるようだが、「アニラオの海はいいよ!」という口コミで、安定した人気を誇る。マクロの生き物が豊富で、フォト派ダイバーにも大人気のアニラオ。眼力の高いローカルガイドと一緒に潜れば、次から次へとお宝が現れる!

tsumi-shima ダイバーの夢をつみあげていく島 tsumishima.com

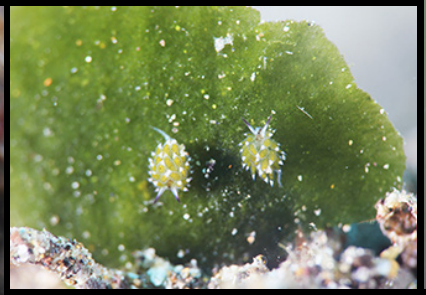
We World explorer (株)ワールドツアープランナーズ www.wtp.co.jp

© 2017 World Tour Planners Co.,Ltd. All Rights Reserved.

マニラから約2時間半の先にある楽園

Philippines Anilao
フィリピン・アニラオ

初日の1本目は、ハイディポイント。これまで大活躍していたマクロ派垂涎のポイント、シークレットベイの隣にあるポイントで、ハイディさんの家の前だから「ハイディポイント」。緩やかな砂地の傾斜のポイントで、何もいないように見えても、凄腕ガイドさんにかかれば、どんどん生き物を見つけ、教えてくれる。最初は、親の体にたくさんの子供をつけたワレカラ。少し苦手な感じの被写体だが、初めて見るので随分と興奮して撮影した。そして、ムカデミノウミウシの交接。これも初めてで生殖器官の大きさに、これまた驚く。続いて、貝の中のミジンベニハゼのペアを発見。水深19mの砂地で、卵をお世話するトウアカクマノミの家族に出会う。ここで、キーワードを思いつく! 「Love Love ハイディ」……。いや、その後も、様々なペアを紹介してもらい、ちょっと大袈裟かもしれないけれど、「愛に溢れた Love ポイント」でした（笑）。

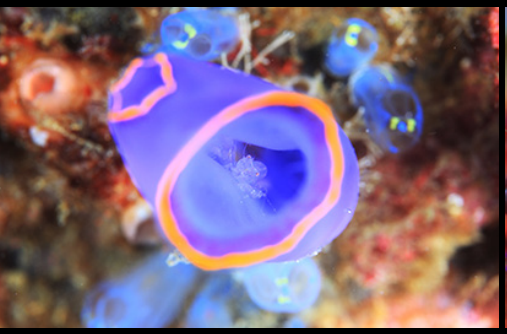


Philippines
Anilao
フィリピン・アニラオ

ガイドはリズム良く、お魚、ウミウシ、エビカニ……

2本目は、リゾートに戻るように移動して、サンビューというポイントへ。エントリーして気が付いたのは、砂地に幾つかのサンゴなど小さな根があり、そこにソフトコーラルやウミシダが生息。1本目よりもカラフルな感じ。ローカルガイドのロデルはとても眼力があり、次から次へと生き物を見せてくれる。だから、それにつられて、彼のペースでどんどん撮影を続けていく。ウミウシは見せて欲しいとリクエストしていたので、紹介されるとホイホイ撮影。しかし、合間にエビカニを入れてくる。実は最初に、あまりエビカニは紹介しなくてもいいよ、とちょっと偏った取材になるような言葉を発していたのだが、彼はどんどん見せてくれる。なので、リズムを壊さないようにどんどん撮影していく……。ここも緩やかな傾斜で、エキジットするまでに様々な生き物に会える。表情の可愛いコウイカ、珍しいヤッコ、小さなイソギンチャクに住むクマノミなどなど。楽しい1ダイブだった。

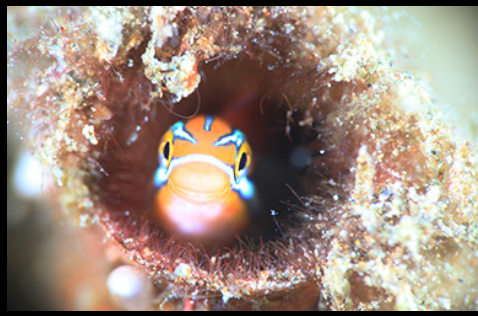
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

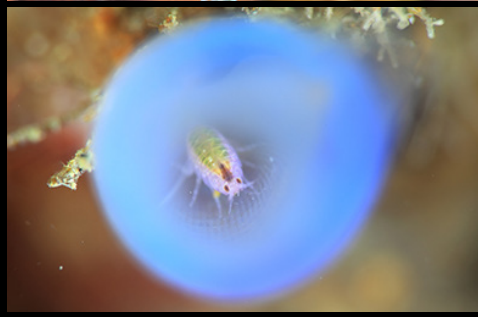


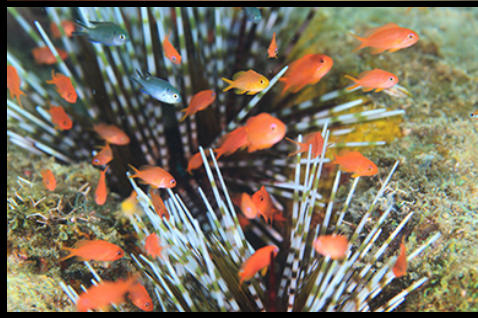
そして、ガイドさんは、エビカニ好きだった……（笑）

3本目は、マト。ここは好きなポイントで、幾つかの良い写真が撮れた良いイメージが強いポイントでもある。エントリーして、砂地を降りていく。ガイドのロデルが、またテンポ良く生き物を見せてくれる。外国版の派手なイイジマフクロウに寄生するカクレエビや、大きなナマコに寄生するウミウシカクレエビ……。その時に、やっと気がついた……。ロデルは、エビカニが好きなんだ……。その後もロボコン、果てはスザクサラサエビまで……。もう私はまな板に乗った鯉（?）状態で、それぞれを大切に撮影していく……（笑）。このポイントで好きなのは、浅瀬の大きな岩で、その表面は、ブルーとオレンジ色のカイメンで覆われている。そこでウミウシやハゼなどを撮影するのだが、特にブルーのカイメンは、他ではあまり見ないほど大きく、抜群の背景になってくれる。正直、この岩肌だけで、1ダイブ潜りたいほど……。明日もリクエストしようかな……（笑）。

Philippines
Anilao
フィリピン・アニラオ



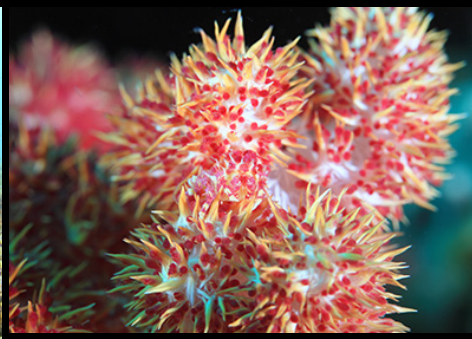




Philippines
Anilao
フィリピン・アニラオ

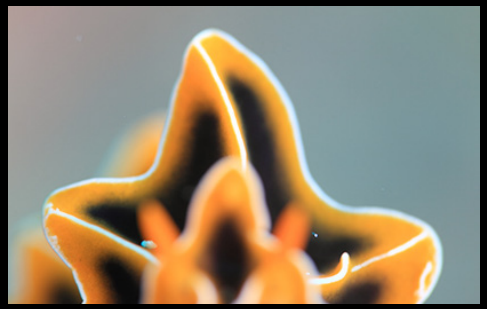
アニラオらしい
ワイドの景色を求めて

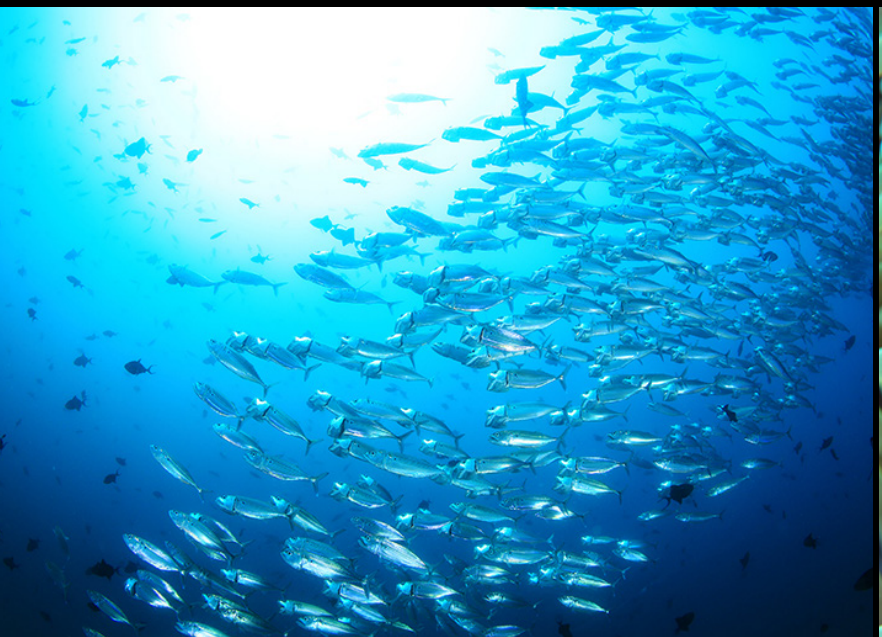
2日目。1本目は、ソンブレロ。ここは少し潮の影響を受けやすい場所で、キンギョハナダイがごっちゃりと群れている。ガイドのロデルにまず連れて行かれた場所は、少し背の高い根で潮あたりの良い場所に、キンギョハナダイがたくさん集まっていた。大きなウチワやウミシダがあるので、なんとも華やかな感じ。マクロの生き物で有名なアニラオだが、このキンギョハナダイの群れは、アニラオでは定番の景色。癒されながら、じっくり撮影して移動。少し深度を下げて、砂地にミゾレチョウチョウウオの群れを眺めながら、小さなケーブへ。ニチリンダテハゼがペアで、そしてテンジクダイの一種が口内保育している。ここでもLove Love……。そして緩やかなドロップを上りながら、キンギョハナダイの中を進んでいく。赤いイソギンチャクにクマノミを見つけたので撮影。浅場のサンゴを眺めながら安全停止へ。



マクロもワイドも楽しめるポイントへ

2本目は、ベツレヘム。ある村の前でのダイビングとなり、「あの村がまさかベツレヘムではないよね?」と聞くと、「もちろん、昔に付いた名前だから、どうしてかはわからないの」とロデル。エントリーして、水深18mのがれ場へ。ここではウミウシがたくさん見つかる。大小様々なウミウシを見せてもらい、水深をあげていく。白い砂地にいくつものパッチコーラルがあり、そこには色彩豊かなウミシダがたくさんついている。浅瀬では、子育てをするスズメダイやジョーフィッシュも見られた。ここもいい場所だな〜と思ったが、水深18mで随分と過ごしてしまったので、さらっと移動。今度は、あの浅瀬のウミシダ畑もじっくり潜ってみたい。





Philippines

Anilao

フィリピン・アニラオ

3本目は、コアラへ。リゾートから約3分のポイント。水深20mあたりに大きな根があり、コガネスズメダイなどが群れている。中層には、グルクマの大群が慌ただしく泳ぐ。一斉に大きな口を開けては捕食を続ける。あまりダイバーを気にしない様子で、気がつくと結構近い距離にいることも。どうしても視点がワイドになりがちだが、ここでカクレクマノミ、セジロクマノミ、卵を保護するクマノミなどに出会った。そして不思議だなと思ったのが、水深8mあたりになると、海底にたくさんの丸いサンゴが重なるようにたくさんいる。これもあまり他では見ない風景だなと撮影した。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

定番の沈んだ海中レストラン・ダリラウト

Philippines Anilao
フィリピン・アニラオ

3日目の朝、ベアトリスと言う、久しく行ってなかったポイントに向かって出港したが、潮が流れていたので、ポイント変更。島影にあり、最も潮の影響を受けないダリラウトへ。エントリーして深度を下げていくと、鉄骨の骨組みが見えてきた。以前、水上レストランだったものが沈んでいる。そこは、大きな漁礁になっていて、その中ではいつもツバメウオの群れに会うことができる。骨組みには、様々なホヤやサンゴ、イソギンチャクが群棲していて、少し奇妙な世界観が出来上がっている。独特のピンポン球サイズのホヤの周囲にキンギョハナダイが絡み、ケヤリムシの前でヘビギンポがポーズを取る。カラフルと言うよりは、寒色系の色でまとまった面白いポイント。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Philippines
Anilao
フィリピン・アニラオ
やっぱり、キルビスロックはすごい!
tsumi-shima
World explorer

Philippines
Anulao
フィリピン・アニラオ

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

潮に洗われる岩肌は、ド派手な底生生物で彩られる

2本目は、キルビスロックへ。このポイントは、昔からお気に入りのポイント。大きな二つの根があり、その周囲には、たくさんの生き物が生息している。まず沖の根に行き、深度を下げる。水深18mくらいの壁から一面の黄色い点々が見える。近くで見るとそれは、黄色いナマコの中で、触手を広げて派手に存在してる。そのナマコをうまく写真のアクセントにしながら、撮影を進めていく。ホヤに付いたガラスハゼ、そして、ガイドのロデルが大きなオオモンカエルアンコウを見つけてくれた。深度を上げると、原色のド派手な壁にウミウシをたくさん見つけることができる。もう楽しくて、楽しくて。後ろ髪を引かれる思いで、エキジット。ボートの上で、「次のダイビングもキルビスロックに潜りたい!」とリクエスト。そして昼食後、翌日のフライトの関係もあったので、早めにリゾートを出発してエントリー。2本目よりも潮の流れがあり、根の壁を自由に行き来することはできなかったけど、またまたたくさんのウミウシを素敵なシチュエーションで見つけてもらい、大満足で最後のダイビングを終えた。

日本人経営で言葉の心配がいらない パシフィコアズールリゾート

Philippines Anilao
フィリピン・アニラオ

日本人経営のダイブリゾート。オープンから18年が経過する老舗。海岸線の緑溢れる敷地内には、マンゴーの木がたくさん立ち並ぶ。全部屋数が21部屋で、テレビはない。大まかに2つのカテゴリーに分かれる。ナチュラルテイストのデラックスルームが10部屋。白でシンプルに統一されたスタンダードが11部屋。強弱があるものの wifi は全ての部屋で繋がる。リゾートの中央には、2つの東屋があるレストランがあり、ダイビングの合間は、ここでも若い方からお年寄りまで、寛ぐことができる。食事はビュッフェスタイルで、基本的に日本人に合う無国籍料理。ご飯、パスタ、鳥や豚のお肉料理、お野菜、スープ、デザートなど、どれも美味しかった。バーでは、バタンガス特産の椰子の木のお酒、ランバノブが用意されているので、是非。空港からの送迎ありで、片道約2時間半。

ダイビングセンター

併設のダイビングセンターは、リゾートの海岸線に位置する。広い空間を使用したダイビングセンターで、準備などゆったりできる。1グループ最大5名までで、初心者からフォト派まで、できる限りゲストのリクエストに応えられるように、グループ編成する。ダイビング本数は、2ダイブ～6ダイブまで可能。基本的には、午前2本、午後1本、ナイト1本で。オプションで早朝ダイブなどが可能。一番遠いダイビングポイントまで約30分。一番近いポイントで3分。ガイドは基本的にローカルガイドで、日本人ダイバーのケアを心得ている。また、日本人マネージャーの益田さんがいるので、言葉の心配もない。2016年12月から始まった薪で沸かすお風呂は、水温が少し寒い時期に大人気!（期間限定で12月～5月）

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer